

近年の大きな地震では、
古い木造住宅の倒壊による圧死が多数を占めています。

昭和56年以前に立てられた木造住宅は

いつ来るか分からない
大地震に備えて

耐震診断を受けましょう!

Question 1

なぜ昭和56年以前の住宅なの?

Question 2

耐震診断で何がわかりますか?

Question 3

誰に頼めばいいのですか?

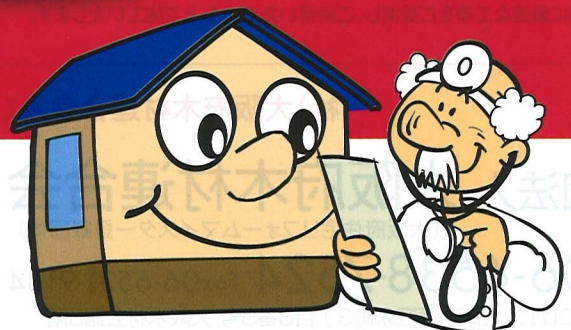
Question 4

費用はどのくらいかかりますか?

Question 5

補強工事のことも気になります。

答えは裏面へ



耐震診断から補強工事まで、木材を知り尽くした 大阪府森林組合がお答えします。



Answer 1 なぜ昭和56年以前の住宅なの？

昭和56年6月に建築基準法が改正されました。
それ以前に建てられた木造家屋は、
耐震基準を満たしていない場合が多く、
耐震性に不安があります。

(平成12年以前の木造家屋も耐震診断をおすすめいたします)



Answer 2 耐震診断で何がわかりますか？

大規模な地震に対する安全性が
わかります。老朽化による雨漏りや
柱の腐朽、シロアリ被害なども
確認できます。



Answer 3 誰に頼めばいいのですか？

大阪府森林組合では、
大阪府知事指定「耐震診断・改修
講習」を受講した担当技術者が、
診断を行います。

Answer 4 費用はどのくらいかかりますか？

大阪府の場合、
補助金制度(上限45,000円)を
利用すれば、約50,000円の診断料も
自己負担額は約5,000円。(※堺市の場合は無料)

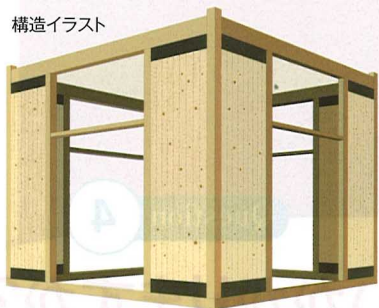
自己負担約5,000円

Answer 5 補強工事のことも気になります。

京都大学と(社)大阪府木材連合会が共同研究した、
新発想の耐震工事、吸震工法「壁柱」をご紹介します。



構造イラスト



吸震工法
壁柱
かべしり

角材を連結させたパネルで補強

窓やふすま、内壁部分など、「壁柱」を設置する場所の
上下に、角柱を固定する土台を設置。9センチ角、長さ
2.7メートル前後の角材9本を、それぞれボルトや木製
ダボ(丸棒)などでしっかり連結させパネル状の耐震壁
を造ります。この耐震壁が揺れに反応し、地震のエン
ルギーを吸収して倒壊を防ぎます。

ご要望や予算に応じて施工

1室から家全体まで、補強する部屋数や室内の何カ所に設置するかなど、ご希
望やご予算に応じて対応します。また、リフォーム時の耐震補強のご相談など、
お客様に最適な工事をご提案し、ご納得いただいた上で施工いたします。



ローコスト(安価)

「壁柱」は大がかりな耐震工事に比べて、工期が
短く、しかも間伐材利用なので、1壁10万円程
度(*)で設置できます。また、予算に応じて1壁
ずつ、数年かけて補強していくことも可能です。
※1壁9センチ角材×9本分 ※費用は家の状況によります。

引越し不要

1室だけに「壁柱」を設置する場合なら、早けれ
ば1日で工事が完了。工期が短く、引越しや仮住
まいの必要がないので(※家の要補修具合によ
る)、住空間を活かした耐震補強ができます。

一室でもOK

居間や寝室など、長く過ごす部屋1室だけの耐
震化からはじめて、徐々に家全体を「壁柱」で
耐震補強すれば、さらに安心感も高まります。

環境に貢献

「壁柱」は、樹木の生長を促すために間引いた
間伐材を利用して作られているので、山や樹
木など環境にもやさしい工法です。



下記へお気軽にご連絡ください。